

はちのす

木戸小学校学校だより
令和4年12月15日
No.268
在籍児童数400名
令和4年12月1日現在

木戸っ子祭りを通して身に付けてほしいこと

校長 土田 学

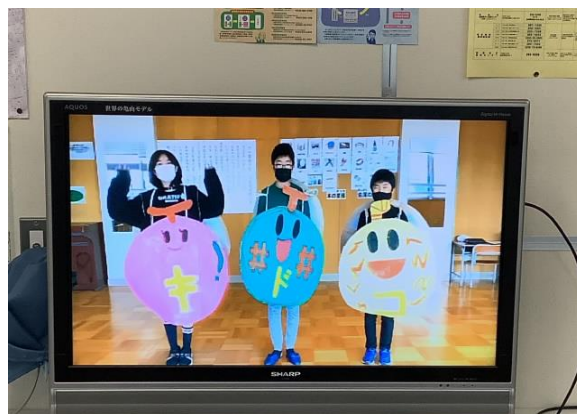
今年カタールで行われているサッカーワールドカップでは日本代表がドイツとスペインに歴史的勝利を挙げるなど、多くのドラマがありました。日本代表については「自分を信じて最善を尽くし、協力して取り組めば物事は成し遂げられる」「試合後の整頓されたロッカールーム」等、子どもたちの学校生活にも反映できるようなエピソードがたくさん伝えられ、全校朝会の講話の中に入れて子どもたちに話をしました。

11月25日（金）には児童会の木戸っ子祭りがありました。新型コロナウイルスの感染拡大が心配される中でしたが、子どもたちが楽しみにし、一生懸命準備してきた行事を無事開催することができ、本当によかったです。当日私は出店したすべてのお店を回って遊びを体験しました。どの学級も、学年に応じた工夫を凝らしており、とても感心しました。またお店PRやルール説明を、映画の予告編やYouTube風にまとめたり、プログラミングの画像を取り入れたり、GIGAスクールの成果や時代の影響を感じさせられました。

木戸っ子祭りの前に授業中校舎を見て回ると、クラスで祭りの話し合いをしている様子を目にすることがありました。遊びの内容やルール、係分担、お客を呼び込むための宣伝の工夫まで、細かなところまで真剣に話し合っていました。準備段階では、みんなで協力しながら準備をしていました。

これからの時代は、誰が答えても同じ答えになる正解（絶対解）ではなく、みんなが納得して物事を進めることができる「納得解」を導き出す力が求められています。こうした納得解を導き出す力を付ける場として、木戸っ子祭りのように話し合って物事を決め協力しながら進めていく教育活動はとても適していると思います。また今年4月に経済産業省から出された「未来人材ビジョン」でも、若い世代に対して求められる能力や姿勢として、「多様性を受容し他者と協働する能力」が示されました。

様々な考えがある中でみんなが納得する結論を出し、その実現のために協力する。そうした経験を今後も教育活動の中で積み重ねていきたいと考えています。



オンラインでのオープニング



異学年ペアでお店を回る子どもたち



一生懸命お店を運営する子どもたち

木戸っ子祭り 2022

11月25日（金）に児童会行事「木戸っ子祭り」を行いました。「木戸っ子祭り」は、2年生以上の各学級が出店を作り、全校児童が楽しむ祭りです。今年も、新型コロナウイルス感染予防をしながら、実施することができました。

当日を迎えるまでに学級毎に話し合いや出店の準備を進めてきたので、当日は「みんなで楽しむ」「お客さんに喜んでもらいたい」という思いでいっぱいになります。張り切って自分の役割に取り組んだり、木戸っ子班のペアと仲良く店を回ったりして楽しむことができました。どの出店も大盛況でした。学校中に笑顔があふれ、木戸っ子たちの絆をさらに深めた一日となりました。



冬休みが始まります

12月24日から冬休みがスタートします。冬休み期間中は、いろいろな行事があり、子どもたちにとって家族や親戚、そして地域の方々と触れ合う絶好の機会となります。このような情勢ではありますが、「新しい生活様式」のもと、感染症対策にもご配慮いただき、よい経験となるようにサポートをお願いします。

来る年も木戸小学校をよろしく申し上げます。どうぞよいお年をお迎えください。

